

# 第61号

発行日 平成27年3月1日  
 発行 星が丘地区社会福祉協議会  
 相模原市中央区星が丘3-1-38  
 星が丘公民館内  
 TEL042-755-9955  
 編集 広報紙編集委員会  
 館区内人口 17,329 (男 8,715人 女 8,614人)  
 世帯数 7,393 (平成27年2月1日現在)

# まごころ

座談会

## 地区社協設立(昭和59年)の頃

星が丘地区社会福祉協議会が設立30周年を迎え、設立時に活躍された皆様をお迎えし、当時の思い出、楽しかったこと・苦勞話等を平成26年12月22日横山2丁目自治会館でお聞きしました。



北島和子 司会 竹田幹夫  
 高橋菊江 小林清武

★出席者紹介★  
 竹田 幹夫《司会》  
 昭和62年〜現在 (自治会・地子連)

小林 清武  
 昭和59年〜63年 (民生委員)

北島 和子  
 昭和60年〜63年 (母子・父子福祉)

平成元年〜14年 (やっきの会)

高橋 菊江  
 昭和59年〜61年 (健康づくり普及員)

平成2年〜18年 (保護司)

いつ頃から社協に関わりましたか?



司会

今日地区社協が始まった頃のことを伺おうと思ってお集まり頂きました。私は昭和62年から社協に関わってきたんですが、皆さんはいつ頃からですか?

小林清武 私が生委員に委嘱されたのは昭和55年ですが、その後自治会長もやっています。民生委員から入ったのかどうか曖昧なんです。でも地区社協が発足したときから関わっていました。

北島和子 昭和59年に星が丘地区社協が設立されていますが、その二年ほど前、当時の公民館長・矢沢さん、民生委員の三沢さんから、この地区にもボランティア団体を作りたいという話が出され、私を含め数名の女性もその話し合いに参加し「ゆずりは」というグループを立ち上げました。社協が出来てからはその中で活動しました。

北島 バザーの売上金の配分、あれも大変でした。高齢者へのお祝いの品には、自身が蕎麦殻でなくプラスチックパイプの入った健康枕と呼ばれるものもありましたね。一つ五千円ほどでした。また交通事故で親を亡くされた子ども達への慰問金の配布などにも使われました。

高橋菊江 私は、設立当時健康づくり普及員だったんですが、社協へ一人出て欲しいということになりました。そしたら今度は保護司会を頼まれたんです。それで両方はできないからと健康づくり普及員をやめ、同時に社協もやめさせて頂きました。その三年後、今度は保護司会から社協にと言われまして、それから十七年間、合計二〇年間ずっと社協に席を置きました。

『まごころ』というタイトルは?

昔は民生委員中心の社協でした

北島 当時の社協が一番力を入れていたのがバザーだったと思います。それから広報紙の発行ですね。地域の人たちに、社協ってどんな活動をしているのか、社協がどうあるべきかなどの思いを伝えていくということでした。当時は今ほど自治会が関わっていないかのように思います。

小林 自治会の関わりはうすかったですね。

北島 特にバザーなどは民生委員さんとボランティア団体が軸になっていました。バザーの提供品なども各地区の民生委員さんを通してお願いしていました。

小林 大変だったですね。あと寄付金集めね。日赤とかの募金に回るのが嫌でした。精神的にも負担が大きかったし。

高橋 三沢さんがずいぶん押して下さったのは覚えてます。そんな訳で私は『まごころ』の創刊号は大切に持っています。自分の分身か子どもみたいな思えて。

司会 創刊号のお面の写真、どんな写真ですか?



まごころ創刊号

北島 それから広報紙の編集も大変でした。『まごころ』と決めるまでには何回も集まりました。

高橋 『まごころ』というタイトルのことですが、委員全員が無記名でタイトル名を出して、その中から皆さんの意見が多かったもので決めました。このタイトルは私が出しました。無記名でしたから誰も知らなかったのです。

司会 私も前に「どうして『まごころ』というタイトルになったの」って聞いたことがあるんですけど、そうしたら、「よく分からないけど、三沢さんがこれでいいって言ったから決まった」とか聞きました。

高橋 三沢さんがずいぶん押して下さったのは覚えてます。そんな訳で私は『まごころ』の創刊号は大切に持っています。自分の分身か子どもみたいな思えて。

司会 創刊号のお面の写真、どんな写真ですか?

いつまでも住み慣れたところで暮らしたい。  
 在宅介護ひとすじで「千代田」で17年やってきました。

ゆうほうかい  
**社会福祉法人 悠朋会**  
 相模原市中央区千代田2-4-1  
 www.yuhokai-kaigo.com

■千代田デイサービスセンター  
 042-751-0672



「親切な職員と美味しい食事」が合言葉。365日営業しています。

■ヘルパーステーション千代田  
 042-704-0261

70名のホームヘルパーが訪問活動をしています。介護保険法、総合支援法に対応しています。

いつでもヘルパーさん募集中!



■千代田介護支援センター  
 042-704-0281

5名のケアマネージャーが介護の相談、介護プランの作成にあたっています。

■千代田相談支援センター  
 042-707-1434

障害のある方の介護サービス等の利用計画を作成します。



地域のイベントに「うどん屋さん」の出店をしています。売上金は全て震災被災地に送り続けています。(写真は昨年星が丘フェスティバル)